Freixenet Copestick、2027年に英国事業を4人の執行委員会に引き継ぎ

Damian Clarke氏とRobin Copestick氏が退き、Maria Lopez氏ら4人がFreixenet Copestickの英国事業を率いる

2026年11月16日（月）



Henkell Freixenetの英国事業会社Freixenet Copestickは11月16日（月）、2027年1月から新たな経営体制に移行すると発表した。現マネージングディレクターのDamian Clarke氏とRobin Copestick氏が現在の役職を退き、新設される執行委員会に事業の運営を引き継ぐ。

同社によると、今回の変更は、近年築いてきた体制を基盤に、次の成長段階に備えることを目的としている。計画では、Maria Lopez氏が最高商務責任者（CCO）、Harmeet Matharu氏が最高財務責任者（CFO）に就任する。両氏がFreixenet Copestickの取締役会を構成する。

英国執行委員会には、同社のマーケティングディレクターであるLucy Auld氏と、オペレーションディレクターのRob Hilton氏も加わる。Freixenet Copestickによると、2027年1月に移行が実施された後、この4人で英国事業を率いる。

Clarke氏とCopestick氏は、グループ全体から離れるわけではない。同社によると、Clarke氏

はHenkell Freixenetでグローバルリーダーとしての役割を続け、Copestick氏はグループ内の新たな役職に就く。Copestick氏の新しい役職について、発表では詳細が明らかにされなかった。

今回の移行により、英国事業の日常的な経営は、財務、マーケティング、オペレーション、商業戦略の各分野で既に上級職を担う幹部に委ねられる。同社は現体制からの断絶ではなく、計画的な引き継ぎと位置付け、新たな体制は退任するマネージングディレクターが築いた基盤を引き継ぐとしている。

発表に合わせて公表された声明で、Lopez氏は、経営チームは新体制に移る準備ができており、今後の機会に目を向けていると述べた。また、Clarke氏とCopestick氏の貢献に謝意を示し、両氏は今後も同社にとって重要な存在であり続けるとした。さらに、I heart Wines、Mionetto、Bolney、Freixenetなどのブランドに加え、他市場のプレミアム生産者にも触れ、同社のブランド群とサプライヤーとの関係を強調した。

同氏の発言からは、消費者需要の変化、コスト面の制約、英国市場での競争がワイン事業者に引き続き重くのしかかるなか、今回の体制見直しを幅広いポートフォリオに対する監督を強化する手段と捉えていることがうかがえる。Freixenet Copestickは、今回の経営陣刷新に伴い、ブランド構成、サプライヤーとの提携、あるいは広範な商業戦略に変更はないと発表した。

Clarke氏は、HenkellとFreixenetの合併以来、英国事業を率いてきたことを喜ばしく思うと述べ、築き上げてきた経営チームを誇りに思うと語った。また、後任の幹部たちが、品質、伝統、祝祭を大切にする姿勢を変えることなく、同社のブランドをさらに発展させていくと確信していると付け加えた。

Copestick氏も今回の移行を新たな段階の始まりと表現した。Copestick Murray、そして後のFreixenet Copestickでマネージングディレクターを務めたことは、光栄であり、楽しい経験でもあったと述べた。2005年の会社設立時には、これほど成功するとは想像していなかったと振り返り、新チームが事業を率いる姿を見届けることと、Henkell Freixenetで新たな役職に就くことの双方を楽しみにしていると語った。